

令和 4 年度 東京都立田園調布高等学校 学校経営計画

東京都立田園調布高等学校長  
福原 利信

I 目指す学校

1 教育目標

「学芸を愛し、個人の価値を尊び、勤労と責任を重んじ、心身共に健康で、公正な判断力と強い実行力のある人間を育成する。」

2 スクールミッション

「学芸を愛し、個人の価値を尊び、勤労と責任を重んじ、心身共に健康で、公正な判断力と強い実行力のある人間を育成する」を教育目標とし、学習指導と学校生活の充実を図り、生徒が自ら学び自ら考える力を涵養し、未来社会で活躍できる人材を育成します。

3 グラデュエーション・ポリシー

『未来社会で活躍できる人材の育成』

「誠実・敬愛・自主・自律」の生活信条のもとに心身共に健康で生涯にわたり学び続ける力をもった、規範意識のある生徒の育成を目指しその実現に努める。すなわち、学力のみならず、未来社会を「自ら考え、自ら創り上げる」ことのできる生徒を育む。

4 カリキュラム・ポリシー

○知識・技能を高める教育

(生きて働く基礎・基本を身に付けさせる。)

○思考力・判断力・表現力を高める教育

(課題解決に向けて自らの知識・技能を活用し、自ら考え、判断し、表現する力を付けさせる。)

○未来社会で活躍できる学びに向かう力、人間性の育成

(自己肯定感を育み、高い志をもち、豊かな人間性を育成する。)

○生涯にわたり健康な心身を維持し、体力向上に励ませる教育

(座学だけでなく学校行事や部活動への取り組みを通して、互いに成長できる指導を推進する。)

5 アドミッション・ポリシー

○ これからの社会で自ら行動し、活躍しようと目標をもっている生徒

○ 高校での全ての学びに、真剣に取り組み努力を続けられる生徒

○ 高い志を持ち、上級学校等へ進学を通して生涯学び続ける意志がある生徒

○ 本校の生活信条を理解し、日々の生活で実行できる生徒

II 中期的目標と方策

1 本校に与えられた、スクールミッションを実現出来るよう、教職員が協力して学校運営にあたる。本校の運営に関わる全ての者が、「未来社会で活躍できる人材の育成」に関わっていることを自覚し、自らのライフ・ワーク・バランスを考え、全力で職責の遂行に取り組む。

2 授業の充実

将来の変化を予測することが困難な時代となり、学校教育で身につけさせたい力はこれまでとは同じではない事を教師が理解し、授業計画を組織的に作成する。新しい学習指導要領で示された「知識及び技能」「思考力、判断力、表現力等」「学びに向かう力、人間性等」の3観点をバランスよく育成することが出来る授業を実施する。また、総合的な探究の時間の充実に務め、教科横断型の学びの機会を創出し、文系、理系にとらわれない総合的な学力の定着が図れるよう全教師が協力して取り組む。

ICT やオンライン教材等を活用した新しい学びや、指導と評価の一体化については、各教科で指導・評価方法を検討し実践した後に、その成果を学校全体で共有し更なる指導に生かす仕組みを構築する。

### 3 進路指導の充実

進路指導部を中心とした学校として継続的な指導計画を作成する。「田高進路プロジェクト」での取組を振り返り、生徒一人一人が将来の自己実現に夢と希望をもてるような指導を全職員が協力して行う。

### 4 生活指導の充実

本校の生徒としての帰属意識を醸成し、生活規律の向上を図る集団づくりを組織的に推進する。

### 5 特別活動、部活動の充実

全日制普通科高校として、学校行事、ホームルーム活動、生徒会活動、部活動の充実を図る。全ての活動に高い目標をもたせ、生徒の主体性、計画性、他者と豊かに関わるコミュニケーション能力を育てる。活動にあたっては、生徒の自主・自律の力を育み、自ら考え行動できるよう指導を行う。

### 6 関係諸機関との連携・学校PR

近隣の地域や教育機関との連携・交流、学校設定科目「人間と社会」（「総合的な探究の時間」で代替履修）の活動、学校開放、教育活動に係る情報発信等を通して、地域に根ざした学校づくりを推進する。

## III 今年度の取組目標と方策

### 教育活動の目標と方策

経営目標達成に向け、教職員が一丸となって生徒主体の教育活動を展開し、以下の目標のもと、方策の確実な履行に努める。

#### 1 学校経営・組織体制

##### (1) 目標

目の前の生徒の為に何が出来るかを全教職員で考え、「できる事をできる範囲で」全員で協力して取り組む。計画は担当者が行い、実施は全教職員が行う事とする。「チーム田園調布」の自覚をもって、ライフ・ワーク・バランスよく学校経営計画を着実に履行する。また、分掌・学年・教科・経営企画室間の連携を図り、企画調整会議を基軸とした学校経営を行う。

##### (2) 方策

- ① 学校経営計画に基づき分掌、学年、各教科は互いに連携・協力して、計画達成に向けた分掌運営・学年運営、教科指導を行う。実施にあたっては教職員で共通理解がもてるよう事前の調整を行う。
- ② ICT 機器の活用を推進するとともに、CYOD (Choose Your Own Device) の授業等での活用を教科、学年が主導する。デジタルサポーター (ICT 支援員) の協力を得て、「都立学校統合型校務支援システム」、「都立学校庶務事務システム」、「定期考査採点・分析システム」の円滑な導入と活用の促進を図る。
- ③ 教職員一人一人がその職責を十分に理解するとともに倫理観や規範意識等をより一層高め、「教職員のサービスに関するガイドライン」に基づき、サービスの厳正に努める。(人権尊重の精神及びコンプライアンスの徹底を図り、体罰・暴言等の防止)

#### 2 学習指導

##### (1) 目標

生徒の学力向上に全教職員で取り組む。また、生徒一人一人の「学びに向かう力、人間性等」の育成に普段の授業内で意識して取り組む。

教師一人一人が授業の中で「どのように社会・世界と関わりよりよい人生を送るか」という事を教師自らが考え、生徒が「何を理解しているか、何が出来るか」を適切に指導し、「理解していること・出来ることをどう使うか」という事を生徒一人一人が考えられるような授業を行う。「知識及び技能」を教え込む授業だけでなく、「思考力、判断力、表現力等」を伸ばすような授業を行う。教師は生徒が学びたいと思うような授業が行えるよう授業改善に努めるとともに指導方法の改善を図る。

## (2) 方策

- ① 教材研究、指導方法の研究等を充実し、生徒にとって魅力ある授業を実施する。生徒の授業満足度の向上を図る。
- ② 各教科で「知識及び技能」「思考力、判断力、表現力等」「学びに向かう力、人間性等」の3観点をバランスよく指導するとともに、評価・評定について生徒、保護者へ説明ができる資料を作成する。
- ③ 自宅学習課題、スタディサプリの活用は学年の教科担当者間等で出題の総量を調整し生徒の主体的・自律的な学習活動を支援する。（各教科でのスタディサプリ活用状況を記録し共有する。）
- ④ 「第二期・進学指導研究校」の指定を生かして他校の授業見学に参加し教科指導力の向上を図る。
- ⑤ 「英語教育推進校」の指定を活かし英語によるコミュニケーションの機会を増やし総合的な英語力の向上を図る。
- ⑥ 「理数研究校」の指定を生かし、外部機関との連携や、発表会への参加等を通して理系人材の育成を図る。
- ⑦ 読書活動を推進し、学校図書館の有効活用を図る。また、ビブリオバトル（書評合戦）等の参加を通して、表現力、プレゼンテーション能力の向上を図る。
- ⑧ 総合的な探究の時間の充実を図り、未来社会を「自ら考え、自ら創り上げる」人材を育成する。
- ⑨ 外部講師を積極的に招聘し生徒の知的好奇心の向上を図ると共に、社会への関りの場を増やし開かれた教育の場を作る。

## 3 生活指導

### (1) 目標

本校の生徒としての帰属意識を醸成し、生活規律の向上を図る。他者を思いやり、心豊かな学校生活を送り、未来社会で活躍できる人材となるよう指導する。具体的には生活指導部を中心とした組織的な生活指導（学年毎に指導が異なることがない）を行い、校内規律及び遅刻指導の徹底を図る。

### (2) 方策

- ① 全ての教師が学校の指導方針を共通理解し、生徒一人一人に寄り添った生活指導を行う。生徒の情報は全職員で共有し、生徒対応だけでなく保護者対応も丁寧に行う。
- ② 生徒の課題を把握するために、生活実態調査を年2回行い、基本的な生活習慣の改善点を明確にし、指導の確立を図る。
- ③ 「学校いじめ防止基本方針」に基づき、いじめアンケートを年3回実施する。いじめ防止・教育相談委員会の毎月の実施及びスクールカウンセラー、専門医派遣事業利用による医師の効果的活用を通して生徒の悩みの解決に努め、生命尊重に資する教育を推進するなど、生徒の健全育成に向け、家庭・関係機関と連携し、学校全体の相談機能の充実を図る。
- ④ 「SNS学校ルール」に基づき、情報リテラシー、情報モラルを育成する。
- ⑤ 「防災教育研究指定校」の指定を生かし、地域と連携した防災訓練等を計画的に実施し自助、共助の大切さや奉仕の精神を体得させる。

## 4 進路指導

### (1) 目標

進学実績の向上と進路指導の充実を目指す。進路指導部を中心に受験指導を学年と協力しておこなう。一人一人に合った進路情報を提供し、最後まであきらめない受験指導を行う。

「第二期・進学指導研究校」として、進路指導に必要なデータの共有・活用を図り、国公立大、難関私立大をはじめとする、生徒の進路希望実現に向けた指導を、進路指導部を中心として計画的に行う。

### (2) 方策

- ① 生徒の学習状況を教師が分析し、学習指導、進路指導に活用する。具体的には模試分析、定期試験の分析を各教科で行い、その後の教科指導に役立てる。（模試分析会、出願検討会の実施）
- ② 進路ガイダンス等を充実させ、文理にとらわれない学力の育成を図り、国公立大学の総合型選抜等の情報提供を行い、受験の機会を増やす指導を行う。（進路通信等の発行）
- ③ 担任による個人面談・三者面談、進路指導部による進路相談等、面談・相談機能の充実を図り、生徒の進路意識の醸成に努める。（模試データのFineSystem等の活用）

- ④ 本校の特長であるアドバンスクラスの指導には全ての教師が関り、生徒が目標とする、国公立大学、難関私立大学等への受験指導の充実を図る。計画の実施についてはアドバンス委員会と進路指導部、学年が協力して行う。

## 5 特別活動・部活動

### (1) 目標

よりよい生活や人間関係を築こうとする自主的・実践的な態度を育てるとともに、人間としての在り方生き方についての自覚を深め、自己を生かす能力を養う。また、生徒の体力の維持向上、健康の保持増進に計画的に取り組む。

### (2) 方策

- ① 全日制普通科高校として、新型コロナウイルス感染拡大防止対策を十分に実施しながら、学校行事、部活動を可能な限り実施する。
- ② 「TOKYOACTIVE PLAN for students」を参考にした体力向上の取組を実施する。東京都体力・運動能力調査の体力合計点平均値を、東京都平均以上を目指す。
- ③ 「生涯の健康に関する理解促進事業実施校」の指定を生かし、生涯を通じて生徒が、自らの健康や環境を管理し、改善していくための資質・能力を育成する。
- ④ 生徒会執行部と校長、生活指導部との話し合いを定期的実施し、生徒が主役となる学校運営を目指す。

## 6 募集・広報活動

### (1) 目標

本校を志望する中学生を増やす。近隣地域、中学校、学習塾等に本校の活動を広く広報し、田園調布高校の教育活動に協力してくれる人を増やす。

### (2) 方策

- ① 中学校、学習塾等へのPRを充実させる。(中学校、塾等への訪問、資料送付)
- ② 学校ホームページの充実。(最新情報の掲載、募集対策のページの充実)
- ③ 学校説明会、合同説明会等での効果的なPR方法の研究。広報資料の充実。

## IV 数値目標

- (1) 大学合格者数を、国公立大 10 名以上、難関私立大（早慶上理）10 名以上、私立大（GMARCH）60 名以上とする。  
(令和3年度 国公立大 7名、難関私大 11名、GMARCH 55名)  
(令和2年度 国公立大 6名、難関私大 5名、GMARCH 40名)
- (2) 学校評価アンケートの「本校に入学して満足している」と回答する生徒、保護者の割合を増やす。  
生徒 80%以上(令和3年度 77%、令和2年度 84%)  
保護者 85%以上(令和3年度 85%、令和2年度 88%)
- (3) 学校評価アンケートの「生徒の進路希望実現に必要な学力を育む授業を行っている」と回答する生徒、の割合を増やす。  
生徒 80%以上(令和3年度 75%、令和2年度 75%)
- (4) 生徒の授業以外の平日の自学自習時間の目安を2時間とし、各学年の達成率を30%以上にする。  
(令和3年度 1年生:16.2%、2年生3年生記録なし)
- (5) 12月時点で、1・2年生の部活動加入率80%にする。(令和3年度 78%、令和2年度 76%)
- (6) 入学者選抜応募倍率を推薦2.6倍以上、第一次募集1.9倍以上にする。  
(令和3年度 推薦2.63倍、分割前期1.91倍、分割後期2.30倍)  
(令和2年度 推薦2.89倍、分割前期2.10倍、分割後期1.85倍)
- (7) 東京都体力・運動能力調査の体力合計点平均値を、東京都平均以上とする。  
(前年度 男子 50.83(東京都平均 50.8)・女子 51.13(東京都平均 50.7))